

# パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2018年7月1日 178号  
世界平和地球村の建設と自然環境の保護

## 建設の進む、エビ養殖の保温室



オニナガエビ

河川や湖沼は、水温の季節変動や昼夜変動が大きく、淡水の魚介類は温度変動に適応しているのに対し、水温が安定している海洋に棲む魚介類は、温度変化にあまり強くないので、その養殖においては水温の管理がとても重要です。日本の山奥の温泉地で、高級魚フグの養殖が盛んなのも、そのためです。五月末、レダ基地で成長し、抱卵したエビから、約五〇%の孵化後生存率が観察されました。また六月末には韓国鮮文大の權燦樞教授が、研究生二名を伴ってレダ基地に赴き、本プロジェクトをパワーアップさせます。アシンシン大学のマグノ教授も、パラグアイにとつて画期的なエビ養殖に、共同研究の熱意を見せています。エビの生態の様々な不思

レダ基地では、二〇一〇年以来、アシンシン国立大学獣医学部と連携して、淡水魚パクーの養殖、人工孵化、稚魚放流等のプロジェクトを積極的に進めました。その経過はこれまで本紙やウェブサイトでもお知らせしてきたように、多くの人々の関心を集め、中央政府関係者、地元自治体をはじめ、幅広く住民の期待を担うようになりました。これに加え、一昨年より淡水エビの一種であるオニナガエビの養殖研究にも着手し、その十分な可能性のあることを、これまでに確認してきました。オニナガエビは、孵化してから稚エビに成長するまでの約一か月間、汽水域で生活します。パラグアイは内陸国ですが、チャコ地域の地下には大量の塩水のあることが知られ、これによる塩害が農耕を困難にし、人口過疎の一因でもありました。この地下塩水は、天然の海水とよく似たミネラル成分を含んでいることも、同研究所の奥迫孝顕研究員による分析で判明しました。しかも天然の海水のような汚染が全く見られないでの、海水養殖への応用が期待されています。

河川や湖沼は、水温の季節変動や昼夜変動が大きく、淡水の魚介類は温度変動に適応しているのに対し、水温が安定している海洋に棲む魚介類は、温度変化にあまり強くないので、その養殖においては水温の管理がとても重要です。日本の山奥の温泉地で、高級魚フグの養殖が盛んなのも、そのためです。五月末、レダ基地で成長し、抱卵したエビから、

約五〇%の孵化後生存率が観察されました。また六月末には韓国鮮文大の權燦樞教授が、研究生二名を伴ってレダ基地に赴き、本プロジェクトをパワーアップさせます。アシンシン大学のマグノ教授も、パラグアイにとつて画期的なエビ養殖に、共同研究の熱意を見せています。エビの生態の様々な不思

## 地下塩水によるエビ養殖の実現へ

# PANTANAL RESEARCH INSTITUTE



SUN MOON UNIVERSITY



ASUNCION NATIONAL UNIVERSITY



FOUNDATION FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT  
IN THE NORTH AND SOUTH AMERICAS



パンタナール研究所に立った新看板は訪問者がよく見る。 5月、北の空に輝く太陽。レダ基地公館前にて。



屋外養殖池で成長したエビ。



中田所長の考案によるエビの養殖池。



孵化直後のエビの顕微写真。



保温槽に内張りを施す、中田所長、上山氏、ほか。



エビ育成用保温槽の外枠を製作する水落氏。



河野さんが世話をしている羊のサン。



野口君が収穫した蜂蜜。搾る前。



アメリカンアラに草を差し出すシストさん。

今、レダ基地では

## レダの体験と感想――一時帰国者が報告

六月十日（日）川崎市内の大山街道ふるさと館において開かれた当会の定例集会において、最近レダから一時帰国したばかりの四氏が、レダにおける体験と感想を報告しました。以下は、その要旨です。

● **岩澤春比古氏**（主報告者）「レダでは、環境に慣れるために、毎日が必死でした。そのためか、今も日本にいるという実感が湧きません。私たちの目標は、まず地球環境問題の克服。そのための植樹運動

A group of seven people, including a man in a light blue striped shirt and a man in a light blue polo shirt, standing outdoors near a body of water. They are all wearing hats and casual clothing. The man in the striped shirt is in the center, and the man in the polo shirt is to his right. In the background, there is a body of water and a line of trees under a cloudy sky.

中田所長 権教授、岩澤氏、や農業研究。さらに世界の青年と指導者の教育。そのための奉仕隊派遣や諸研修会。そしてすべては神と人類と万物の福地である。世界平和地球村の建設

へと続きます。レダに行つて、中田所長が最もや  
たいことが教育であることも分かりました。実際、  
教育施設の維持・修理には多大な労力が投入され  
ています。教育プログラムでは、講義の後、奉仕活動、  
農作業、養殖関連作業、釣り、ほか様々な体験学習  
が行われます。青年たちが感動するのは、古い先輩  
たちが初心を忘れず、献身的に汗を流している姿で、  
これを直接見て、自ら体験することで、指導者とし  
ての資質が育っています。提唱者の文先生は『皆さ  
んは、ブラジルのジヤルジンと、パラグアイのレダ  
を中心として展開している理想村建設に同参しなけ

● **吉村敏明氏** 「三か月間、あつという間でした。行くとき、養蜂をしている青年のためにスズメバチ駆除ばかりなりません」と語られました。レダには、本当に見せるもの、そして死守すべきものがあるのです。」

河野さん（左）、福島さんとともに

A man with a wide smile, wearing a white cap and a blue patterned shirt, holds a large, silvery fish (likely a piranha) with both hands. He is on a boat, and other people are visible in the background. The fish is quite large, with a prominent yellowish-orange fin.

ざりにせず、工具室、公館、ほか全施設をとてもきれいにしてくれました。壁のペンキ塗り、看板描き、菜園の手入れと収穫、日本食の料理、昼食会でのティー・ブルーアテンダなど、すばらしい活躍をして、裏方で式典を支えてくれました。レダ基地は、研修施設として、もつともつと活用すべきだと思います。また、青年研修を専任で担当する責任者も欲しく思います。」

管理など、日常を支える業務を担当しているので、ありきたりのことしか報告できないかもしません。新しいプロジェクトが進展する中、中田所長や上山氏の手足となるべく、たとえ不十分でも、そのように努力しました。養豚担当の木村君や、奥迫さんの手伝いをしている梶本君は、上司が不在の時も立派に業務を遂行していく、頼もしいです。アメリカから来たチーフのメンバーで、一人レダメに残った園田君は、何にでもすごい集中力で取り組みます。福島さんは、あの工具室を、見違えるほどきれいにしました。すべての青年にそのような姿勢が見られます。日本に来てみると、あらゆるもののが

大和田氏。備蓄品を管理する

君。野口前川氏と、レダに帰って来た前川氏の、レダの頑張りを、よく整つて、きれいです。日本によきものを、しつかり掴みとつて、またレダで頑張ります。」

●前川稔氏「レダでの一年は、あつと言う間に過ぎました。また、日本では感じることのなかつた、体力の限界も感じました。大山氏も言われるように、レダでは本心の命ずるま

ください。まさに、ぶつ倒れてもやるのだ、死んでもやるのだ、という覚悟で歩みました。初心に帰り、来世に旅立つ前に、何かまとまつたものを成し遂げたいという思いです。皆様、体が動けるうちにレダに行くのがよいと思います。」

